



コモ ヴァイ
COMO VAI?
ロザーネです



(COMO VAI?=ポルトガル語で「ごきげんいかが?」)

第7回 正反対の国の結婚式

5月は結婚の月

マグニーフィコ エスペタクラル マラヴィリョソ
Magnifico, Espetacular, Maravilhoso (豪華な、素晴らしい、美しい)!!

4月の彦根は、桜に包まれた城と石垣がいつもにもまして美しく、素晴らしい景色でした。ブラジルでは、日系人が住んでいるところには必ず桜の木が植えられ、遠い故郷の春をしのんでいます。

5月も花の季節です。これから夏にかけて色々な花を楽しむことができます。私は、たくさんの花を見ると花嫁姿を連想します。5月は、ブラジルでは「Mês das noivas」(結婚の月)なのです。

出会いの言葉はストレートに

ブラジル人の出会いは、積極的でストレートなプロポーズから始まります。小さいころから、「Seja claro e direto」(はっきりとストレートに言いなさい)としつけられるので、この習慣がブラジル人の性格となって現れます。

日本の男性が女性にアプローチするときのように「結婚していますか?」などと遠回しに言うと、ブラジル人は「どうしてそんな質問をするの?」とか、「何を言いたいのか?この人は」というように反応してしまいます。プロポーズの言葉だと分かって、「本当に誘われているのかな?」と疑心暗鬼になります。

あいまいな表現は誤解を招くので、特に出会いの言葉には気をつけなければなりません。

結婚と入籍

ところで、私たちの周りでは、最近結婚をしない人が増えてきているように思います。これは、日本でもブラジルでもよく似た傾向にあります。ところが、不思議なことに、ブラジルでは入籍する人の割合は10年前と比較すると54.6%も増えているのです。つまり、昔は結婚しても入籍しない人がたくさんいたのです。

ブラジルの公式な結婚の手続きは、少々やっかいです。まず1か月間、結婚する者どうしの名前を官報と教会の掲示板に載せます。これは、その結婚に反対する人がいないかどうかを確認するため、反対者がいなければ、式の日を決めることができます。

その後教会では、新しい家族を築き、信仰を深める研修を受けます。洗礼を受けた証明書や、仲人の名簿も提出しなければなりません。結婚式の当日は、教会に花を飾り、式の準備を行います。

結婚式の風習

教会の式を終え、玄関に新夫婦が現れると、いきなりお米をカップルに投げる風習があります。これは、中国から伝わってきた風習で、健康と幸運を願い、子宝に恵まれるようにとの祈りを込めた儀式です。戦争を経験した日系人には「なんて粗末なことを」と思う人が多いようですが、文化の違いと解釈する以外にありません。また、新郎のネクタイをハサミで切ったり、新婦の右の靴にお金を入れたりする習慣もあります。いずれも、新しい門出を祝うブラジルならではの風習です。

披露宴には家族や夫婦単位で招待します。たとえ独身者であってもカップルで招待するのが普通です。招かれた人はお祝いをしますが、日系人社会のなかでわざわざお金によるお祝いの習慣が残っているほかは、普通、品物をプレゼントします。

このように、ブラジルの結婚式は日本とはずいぶん異なっています。地球の正反対にある2つの国。伝統的な文化や風習の違いはあたりまえなのかも知れません。

(彦根市国際交流員 田尾ロザーネ)